

✿ 平成22年 年頭のご挨拶 ✿



松井大悟

一般社団法人 日本非開削技術協会 会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されましたJSTTの理念は、「ガス、下水道、水道、通信、電力などの地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、及び地下探査等に関する非開削技術者の交流により、我が国の地下利用技術の進歩、および安全性の向上を図り、広く社会公共の福祉の増進に寄与する」こととなっております。非開削技術は、①現地盤をできる限り乱さない、②建設発生土の処理量が削減できる、③交通渋滞による経済的損失やCO₂発生量の抑制ができる、④工事中の景観が維持できる等、環境にやさしい技術です。この非開削技術の利点を広く世の中に受け入れていただくようJSTTは21年におよぶ活動を続けてまいりました。これにより近年では非開削技術の評価も高まってきており、今後この評価をさらに高めるべく努力してまいります。

昨年はJSTTにとりまして重要な年となりました。平成20年12月に一般社団法人に関する新たな法律が施行されました。従来、当協会は事業分野が多岐にまたがり、関係所管省庁も多いことから、法人格の取得が困難でしたが、この法律で所管が内閣府に一元化され、この問題が解決しました。これを受けて法務局に一般社団法人の設立登記申請書を提出し、昨年4月1日に一般社団法人日本非開削技術協会として新たな一歩を踏み出すことができました。今後は社会への非開削技術普及などの公益事業を一層充実させ、公益法人への道を目指したいと考えております。

昨年の第20回非開削技術研究発表会では23件の応募があり、これを7部門に分けて発表して頂きました。この発表会では日本の非開削技術の海外展開や耐震性強化、管更生、特殊推進など、非常に高度でかつ多く

の分野をカバーする貴重な論文集を制作することができました。この論文集が多くの会員に広く活用される事を期待しております。さらに、発表会に併せて来日した国際非開削技術協会（ISTT）D.ダウニー会長から、JSTTの活動に対する温かい賛辞を頂き、国際的にアピールすることもできたと考えております。

平成17年度に発足しましたHDD工法委員会では平成19年2月に新たな設計積算要領及び損料算定参考資料を発行しました。積極的なご活用を期待しております。

インターネットを通じて各種非開削技術の工法選定をサポートする「工法ナビゲーションシステム」は、昨年7月に運営ソフトの全面更新を行い、利用上の利便性を向上させるとともに、最新の管更生・管改築技術を加えて一層の充実を図っております。

国際活動については、昨年3月にカナダ・トロント市で開催された2009年No-Dig国際会議に調査団を派遣しました。日本からは論文8編が発表されました。この会議の全体参加者は2000名に達し、北米における非開削技術への関心の高さを実感してまいりました。今年の2010年No-Dig国際会議は11月にシンガポールで開催される予定で、先進各国に比べて成長の著しい都市での開催には多くの論文投稿や展示会出展が見込まれます。JSTT会員にも多くの方の参加を期待しております。

日本におきましても、インフラの整備、維持管理においては環境にやさしい非開削技術の必要性はますます高まって行くものと考えております。本年は会員の皆様におかれましてもこの流れに乗り、新しい飛躍の年としていただきますよう祈念して私の年頭のご挨拶と致します。